

本會は會則にある通り、會員相互の交誼を親密にすること、音樂の向上を圖ること、が目的である。同じ仕事にたづさはり、同じ趣味を持つてゐるものゝ、相互に親睦であらねばならぬことは申すまでもないことで、湯原前會長は、この點について深く配慮せられたことゝ思ふから、自分も其のことに意を致したいと考へて居る。

現今我國の音樂は、諸君の御盡力で大層盛になり、随分普及するに至つたと思ふ。然し唯單に盛になつた、普及したといふことを以て満足して居てはならぬ。國家社會に、如何様に利用されているかといふ、利用の實際に向つて、觀察することを忘れてはならない。語を換へていへば、娛樂のために使はれているか、修養のために用ひられているかなどいふことである。勿論世間が廣いからいろ／＼であらうが、其の分量を比較して見なければならぬ。音樂を修養のために使つてゐる社會に於ける音樂は、圓滿な發達をなし、力のある尊ぶべきものであるが、娛樂のために用ひてゐる社會の音樂は、概してよい進歩をして居らぬ。我々は常にこの點に着目して、よい方向に向つて進展せしむるやう、努力したいと思ふ。すでに何事によらず、單獨個別ですることは、多數團體でするやうに、力強い結果を得られぬものであるから、互に和睦し、脈絡をとつて、道のために十分盡さねばならぬ。

〔同聲會報〕第八号 大正六年八月 五〜六頁

母校通信

校長茨木先生 休暇中酷暑を推して登校せられ校務の傍ら本會總集會、文部省主催音樂科講習會に於ける講演、訪客竝に母校卒業生

に面接せらるる等頗る御多忙なりしやう見受けられたり。

〔同聲會報〕第九号 大正六年九月 五頁

(二) 村上直次郎(むらかみなおじろう)

旧族籍 大分県士族。府県族籍 東京府平民。
在職期間 大正七年九月〜昭和三年四月。

履歴(要約)

慶応四年(一八六八)二月四日生。

明治二十八年(一八九五)七月十日帝國大学文科大学入学史学科卒業、大学院入学。

明治二十九年(一八九六)五月二十二日〜三十年九月二日拓殖務省より台湾史編纂事務嘱託、この間長崎、熊本、台湾、清国廈門福州、英領香港に出張。

明治三十一年(一八九八)一月四日〜六月二十八日台湾總督府より台湾歴史編纂事務嘱託、本島南部および鹿児島沖繩二県に出張。四月二十七日高等師範学校西洋歴史史および独語の講師嘱託。

明治三十二年(一八九九)五月二十六日文部省の命により南洋語学および同地理歴史学研究のため滿三カ年間スペイン、イタリア、オランダの三カ国に留学。九月十日高等師範学校講師解嘱。九月十三日留学の途に就く。

明治三十三年(一九〇〇)七月二日東京外国語学校教授に任ぜられ高等官六等に叙せられる。引き続き外国留学。

明治三十五年(一九〇二)十二月二十一日帰朝。

明治三十六年(一九〇三)一月二十四日東京帝國大学文科大学講師嘱託、

国史第一講座。三月二十三日〜五月二十五日家屋税仲裁裁判事件に関する事務嘱託。

明治三十七年(一九〇四)八月三十一日国史第一講座に属する職務分担を

解かれる。

明治三十八年(一九〇五)四月一日兼任史料編纂官、マカオ、フィリピンへ出張。マニラの教育状況取調。

明治四十一年(一九〇八)七月二十七日東京外国語学校長に任ぜられ高等官三等に叙せられる(兼史料編纂官如故)。八月十五日兼任東京外国語学校教授。

大正七年(一九一八)九月十四日東京音楽学校長に任ぜられる(兼史料編纂官如故)。学事視察などのため静岡県、埼玉県、京都市、大阪市、秋田県、山形県へ出張。

大正十年(一九二一)六月二十日文学博士の学位を授与される。学事視察などのため新潟県、京都府、長野県、群馬県、茨城県、奈良県他へ出張。卒業生の就職に関し取調のため京都市、大阪市、名古屋市他へ出張。十二月二十八日邦楽教育調査委員を囑託される。

大正十一年(一九二二)十月二十三日職員生徒出張演奏につき京都市、大阪市、名古屋市へ出張。

大正十三年(一九二四)四月十四日音楽科教授の状況視察のため長崎、大分、宮崎、鹿児島各県へ出張。

大正十五年(一九二六)十一月八日日本校生徒修学旅行を兼ね出張演奏につき京都、大阪、名古屋および姫路市へ出張。

昭和二年(一九二七)三月二十三日～五月十二日米国へ出張。

昭和三年(一九二八)四月十七日台北帝国大学教授に任ぜられ、高等官一等に叙せられる。

昭和十五年上智大学教授、のち総長。昭和四十一年九月十七日没。専門は日本史、日欧通交史など。著書・訳書に『長崎市史 通交貿易編西洋諸国部』『長崎オランダ商館の日記』『耶蘇会士日本年報』など。

〔同声会第十二回総集会における挨拶〕

〔前略〕本日こゝに多数の會員諸君にお目にかかゝることは私の最も愉快に思ふ所である。そして毎年會員數を増加して近く一千名に

達せんとするは、會のために喜ばしいことである。例によつて學校のことについて少しくお話し申したいと思ふ。

第一に入學志願者の數が年々著しく増加していくことである。ピアノ志願者の如きは採用者數の約十倍にも達し、師範科も約六七倍といった様な勢で、誠に盛況といふべきである。併しヴァイオリンは其の數が少ないので今少し多くあつてほしいと思ふのである。近時入學試験がむづかしくなつた様にははれてる様であるが、試験程度が高くなつたのではなく、志願者數の殖えた結果として多くの不合格者を出す譯なのである。ピアノの受験者には中々質の良いものがあるが、概して聲樂がまづい。試験では進度を見るのではなくて、その受験者の將來を見るのである。志願者が地方に多いのであるから、地方に居られる諸君が其の間の事情をお含みになつて、十分に仕立て上げて送つてもらひたい。それであるから試験の様子とか勉強の仕方とかを受験者にも知らせ、先生にも心得て頂く様にしたと思つてゐる。それが十分に解つてゐないために、わざ／＼上京して無駄骨を折らして返す様なこともあつて、お氣の毒に思ふことも少くないのである。

次に學校の新築のことであるが、これは嘗て申し上げたこともあると思ふが、既に議會で豫算も通過して新築することに確定してゐるのである。併し震災について事業の緊縮された結果として、十七年度から着手されることになつてゐるのである。敷地は未だ確定しないで、あここ^マと調査中であるが、結局本校は現在の場所、分教場は市内で適當な場所が選定されるのであらうと思つてゐる。

〔同声会第十三回総集会における挨拶〕

〔前略〕次に村上會長は起つて、次の要旨の挨拶を述べられた。

〔文責は全く編輯子にあるのでございます〕

本日この席で多數の諸君にお目にかゝることは私の最も愉快とする所であります。然るにいつもこの會に出席され、いつも本會のためには仕事をされた小山君が突然亡くなられて、こゝに其の姿を見ることの出来ないのは、諸君と共に深く哀むのであります。同君が多年終始一貫して我が樂界のために盡され、樂界から敬慕されて居られたのに、甚だ突然に死去されたことは、返すくも遺憾なことであります。

毎年この席上で學校の近状をお話することが例になつてゐますが、今年は格別新らしく申上げることはありません。在學研究員であつた船橋榮吉君がこの程歸朝されました。同君は聲樂の外に、ピアノ竝に作曲をも研究されまして、其の方の試験までをも受けて歸られました。船橋君の代りに長坂好子君が研究員として渡歐されたことは、既に諸君の御承知のことでありませう。今回から在外の期限が長くなつて三年といふことになりました。期限の長いといふことも結構ではあるが、一面には年々に研究員を派して其の數を澤山にするといふことも大切なので、それらについては種々考慮してゐる次第であります。

學校の入學志望者は毎年多數であるから、其の中の優良なものを採り、少しでも高い程度の課程を學修させて、良い卒業生を出す様

につとめてゐます。そして乙種師範科は現在では設置の當初と事情を異にする様になつて來たからして、今年は乙種師範科の募集を中止し、甲種師範科へ五六人の數を増しました。斯様にすると三年の後には、甲種師範科に十五六人の増員をする様な結果となります。臨時教員養成所も當分は繼續されるから、兩方で毎年約六十人の卒業生を出すことゝなるから、數年の中には幾分か教員の不足を補充し得ると思はれます。

學校の新築は來年度から始まるが、多分分教場の方がさきになるであらませう。分教場の敷地は既に神田駿河臺の鈴木町に選定されてあります。御存知の通り鈴木町は土地も好く交通の便もあり、今までの場所よりもずっと良くなる譯であります。

次に學校内の施設としては、外人教師の増員を計ることゝか、管絃樂の擴張をすることゝか、いろ／＼澤山にあるのですが、國家の財政の現状では、中々思ふ様にまゐりません。絶えず應急の處理をなし、幾分づゝでも常に改善を加へて、少しでもより良い實績の擧る様につとめてゐる様な次第であります。

〔同聲會會報〕第一二七号 昭和二年八月 三〇四頁

(三) 乗杉嘉壽 (のりすぎ かじゅ)

本籍地 東京府東京市豊島区巢鴨町五ノ一二三〇番地。 族称 平民。

在職期間 昭和三年四月〜二十年十月。

履歷 (要約)

明治十一年 (一八七八) 十一月十九日富山県中砺波郡杉木新町 (現砺波市) 生。